



SKY Perfect JSAT
Holdings Inc.

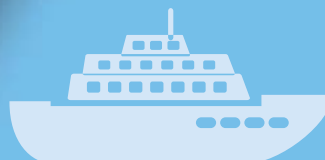
株主通信

2016年3月期

2015年4月1日～2016年3月31日



広がる
未来、
新しい時代
へ発進



積極的な設備投資や
事業投資による
事業領域の拡大を含め、
新たな成長基盤の構築を
目指してまいります。



2016年6月
代表取締役社長

高田 真治

2016年3月期の業績

**営業利益、経常利益、当期純利益は
過去最高益を記録しました。**

中期経営計画の最終年度となった2016年3月期の業績は、有料多チャンネル事業では、プレミアムサービスの加入件数の減少をスカパー！の加入件数増加で補いきれず減収となりましたが、営業費用を効率的に投下した結果、大幅増益となりました。宇宙・衛星事業においては、自治体通信機構向けの管制局設備の販売などもあり増収増益となりました。これらの結果、全社での営業収益は前期比0.2%減の1,629億円と、期首の計画には届きませんでしたが、営業利益は同23.3%増の242億円、当期純利益は同24.8%増の168億円と期首計画、中期経営計画ともに上回り、営業利益、経常利益、当期純利益ともに2007年の設立以来最高益を達成いたしました。

中期経営計画2020*

**オーガニックな成長に加え、設備投資や
M&Aを通じた事業領域の拡大を図ります。**

2011年発表の中期経営計画を振り返りますと、有料多チャンネル事業においてはプレミアムサービスの加入件数の未達や、宇宙・衛星事業における防衛省案件の期ずれなどに

2016年3月期

営業収益

1,629 前期比
0.2%減
億円 DOWN

営業利益

242 前期比
23.3%増
億円 UP

親会社株主に帰属する当期純利益

168 前期比
24.8%増
億円 UP

1株当たり
当期純利益

55.39 円
前期43.85円

1株当たり
年間配当金

14.00 円
前期12.00円

より、営業収益は当初の目標数値を下回りました。しかしながら利益面では、有料多チャンネル事業における費用削減効果や、宇宙・衛星事業での安定した営業利益の確保、減価償却費の減少などから、営業利益、営業利益率ともに当初の目標を大きく上回る結果となりました。

2016年5月、次なる目標として、当社を取り巻く今後の事業環境の変化を踏まえ、2020年度へ向けた「中期経営計画2020」を策定いたしました。この「中期経営計画2020」では、これまでの顧客開拓や運用コスト効率化などを通じたオーガニックな成長に加え、積極的な設備投資やM&Aを含む事業投資による事業領域の拡大に注力し、さらなる成長基盤の拡大を目指すことといたします。

数値目標としては、営業収益2,000億円以上、営業利益300億円以上、EBITDA600億円以上、有料多チャンネル事業加入目標400万件以上を掲げ、達成に向けて全社一丸となって邁進いたします。*「中期経営計画2020」の詳細は3、4ページをご参照ください。

2017年3月期の業績見通し

防衛省向け専用衛星の引き渡しによる収益増と、新規衛星打ち上げによる衛星減価償却費増加等により、増収減益を見込みます。

初年度となる2017年3月期は、宇宙・衛星事業における防衛省向け衛星の引き渡しによる一時的な売上による大幅増

収を見込みますが、有料多チャンネル事業における光回線経由での新規販路拡大に伴う費用の増加、宇宙・衛星事業における新規衛星打ち上げによる減価償却費等の費用の増加と、新興国経済の低迷による影響等から、営業利益は前期比減益を見込みます。いずれの投資も新中期経営計画の達成に向けた戦略的な先行投資として実行するものです。

株主還元

**1株当たり年間16円または
配当性向30%以上となる金額の
いずれか高い金額を還元いたします。**

株主の皆様への利益還元につきましては、引き続き将来の成長へ向けた投資のための内部留保の充実と安定配当の継続を基本方針としております。2016年3月期は中間・期末配当金とも1株当たり7円と、年間では前期から2円増配の14円とさせていただきます。2017年3月期につきましては、1株当たり「年間16円」または「配当性向30%で計算される配当額」のいずれか高い金額で還元を実施する考えです。

株主の皆様におかれましては、引き続き当社の成長にご期待いただきながら、ご支援を賜りますようよろしくお願い申し上げます。

2017年3月期 業績予想

営業収益

2,215 前期比 36.0%増
億円 

営業利益

225 前期比 7.1%減
億円 

親会社株主に帰属する当期純利益

150 前期比 11.1%減
億円 

1株当たり
当期純利益

50.50円
前期55.39円

1株当たり
年間配当金

16.00円
前期14.00円

中期経営計画2020

新たな成長基盤の構築に向けて

2016年5月、スカパーJSATグループは、2020年度に向けた新たな経営の指針として「中期経営計画2020」を策定いたしました。

2020年に向けた今後の事業環境の見通し

- 少子高齢化により人口減少が進み、国内市場が縮小する一方で、訪日観光客が大幅に増加するなど、市場環境が大きく変化
- スマートフォンを核とした巨大ネット企業による侵食とIoT(Internet of Things, モノのインターネット)、AI(人工知能)などの進化によって、通信・放送および宇宙分野を含む様々な領域で新たなプレーヤー、新たなサービスが誕生。既存事業領域における競争が激化
- 2020年東京オリンピック・パラリンピック大会に向け、通信環境の拡充とともに、110度BSとCSの左旋のインフラ整備が進み、4K・8Kの利活用が進展
- 宇宙基本計画、宇宙活動法を基軸に宇宙産業が拡大

基本方針

積極的な設備投資や事業投資による、事業領域の拡大を含め、新たな成長基盤を構築することを目指します。

2020年度 数値目標

グループ連結営業収益	2,000億円以上	グループ連結営業利益	300億円以上
EBITDA	600億円以上	有料多チャンネル加入件数	400万件 [※] 以上

(※スカパー！オンデマンドサービスの有料商品契約者数を含む)

有料多チャンネル事業の重点施策

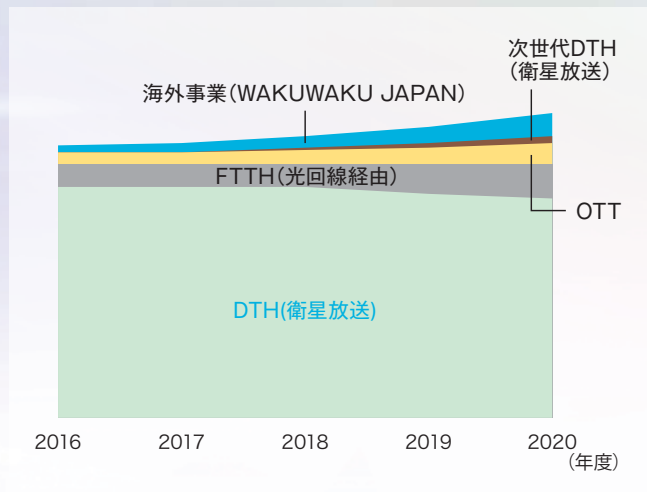
- 放送事業者と連携し、プラットフォームとしてコンテンツによる他社との差別化を推進します。
- DTH(衛星放送)に依存した加入獲得から脱却し、OTTサービス(通信事業者を選ばずインターネット上で提供される動画等のサービス)や、FTTH(光回線経由サービス)での加入獲得へ重点をシフトします。
- DTHは放送の高度化(4K放送)を推進します。
- 海外コンテンツ事業を拡大し、国内外での事業の成長を図ります。

両部門 事業領

- アジアを中心と速し、強固な足
- M&A、事業提、事業領域の争環境への対

有料多チャンネル事業

営業収益

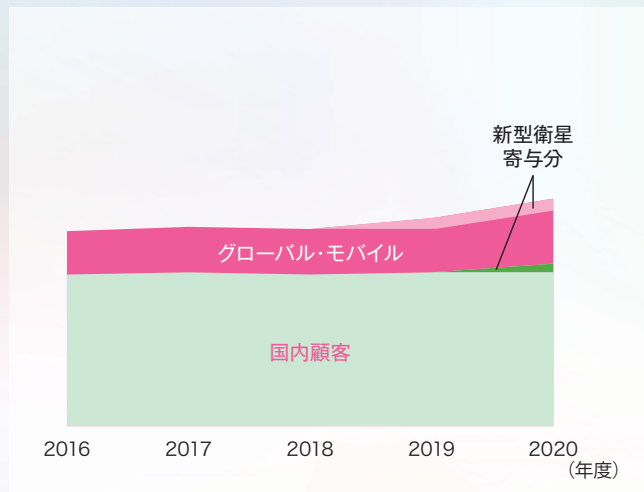


営業利益

販路開拓、次世代DTH投資、OTT投資、スカパー東京メディアセンター設備更新投資、海外事業展開拡大等戦略的な投資を実行。営業利益は当初微減するが2020年度へ向けて漸増。

宇宙・衛星事業

営業収益



営業利益

2017～2018年度は、新規衛星による減価償却費の増加が利益を圧迫。目先ではアジア、ロシアの経済状況も変動要素。新型衛星の利益貢献は2019年度以降を見込む。

宇宙・衛星事業の重点施策

- 拡大するグローバル・モバイルマーケットをターゲットに、HTS (High Throughput Satellite) 等の新型衛星を投入し、競争力を強化して成長の基盤とします。
- 宇宙基本計画に対応した宇宙事業の拡大、非静止衛星を含む新たな衛星利用の開拓を推進します。
- 新予備衛星JCSAT-16の投入により効率的な調達スケジュールを可能にするなど、衛星フリートの効率化を図ります。

の域拡大へ

した海外展開を加場を構築します。

携を積極的に行つた拡大や新たな競応を図ります。

テレビ放送開始60余年、スカパー！開局20周年。 スカパー！進化論で読む時代。



進化期

2016.5 「中期経営計画2020」発表

2011-2015

拡大期

- 2011.10 スカパー！e2(現スカパー！)、BS帯域参入
- 10 BSスカパー！開局
スカパー！オンデマンドサービス提供開始
- 2014.5 スカパー！プレミアムサービス標準画質放送終了
- 2015.3 世界初の4K商用チャンネル放送開始

2006-2010

転換期

- 2006.5 2006FIFAワールドカップドイツ大会 専門チャンネル開局
- 2007.3 Jリーグ全試合生中継開始
- 2008.10 スカパー！HD放送開始(現スカパー！プレミアムサービス)
- 11 第1回スカパー！アワード開催
- 2010.6 2010FIFAワールドカップ南アフリカ大会 全試合生中継

2001-2005

成長期

- 2002.5 2002FIFAワールドカップ日本/韓国 全試合無料放送
- 2002.7 110度CSデジタル放送スタート「スカパー！2(現スカパー！)」
- 2003.4 UEFAチャンピオンズリーグ 国内独占放送権獲得

1996-2000

黎明期

- 1996.10 PerfecTV！本放送開始
- 1998.5 JスカイBとの合併に伴い、SKY PerfecTV！にサービス名称変更
- 2000.9 ディレクTVサービス終了、加入者の統合を完了

お茶の間にテレビが登場して以来60余年、白黒からカラー、さらには4K／8Kの映像革命へ、またアナログからデジタル、オンデマンドサービスとテレビはダイナミックに進化してきました。スカパー！も今年で開局20周年を迎えました。しかし進化はまだ続きます。衛星放送のパイオニアとして、有料放送サービスをけん引してまいります。

スカパー！ 開局20周年 を迎えて



(株)スカパーJSATホールディングス
取締役(有料多チャンネル事業担当)

小牧 次郎

1996年、スカパー！の前身のひとつPerfecTV！が日本で初めてデジタル放送を始めた15年後の2011年、日本のテレビはすべてデジタルになりました。2015年、スカパー！は世界で初めて4K商用チャンネルを始めました。世界の制作現場はHDのときよりはるかに速いスピードで4K化しています。

今年2016年、スカパー！オンデマンドに、世界で誰も見たことの無い、放送とインターネットを自由に行き来できる新しいインターフェイスが登場します。スカパー！は常にパイオニアで、「最初にやる」のが宿命です。日本の、世界の、「テレビ」をリードする存在でありたい。それがスカパー！のDNAなのです。

世の中の動き

2015.5 WAKUWAKU JAPAN(株)設立

- 2011. 7** 地上アナログテレビ放送終了
- 2013. 9** 2020年オリンピック、パラリンピックの開催地が東京に決定
- 2014. 4** 消費税8%スタート
- 7** 日本航空(株)、国内線での機内Wi-Fiサービスを開始
- 2015.10** ラグビーW杯日本3勝

2007. 4 JSAT(株)と(株)スカイパーフェクト・コミュニケーションズが経営統合、持株会社(株)スカパーJSAT(現(株)スカパーJSATホールディングス)設立

2008.10 (株)スカイパーフェクト・コミュニケーションズとJSAT(株)、宇宙通信(株)が合併

- 2006.10** 携帯電話番号ポータビリティ開始
- 12** 任天堂(株) Wii販売開始
- 2009. 4** 新型インフルエンザ流行
- 5** 裁判員制度開始
- 2011. 3** 東日本大震災発生

2004.3 「(株)スカイパーフェクト・コミュニケーションズ」東証一部上場

- 2001. 4** イチロー米メジャーリーグデビュー
- 9** 9.11米国同時多発テロ
- 2003. 4** 新型肺炎SARS蔓延
- 9** 阪神タイガース18年ぶりセ・リーグ優勝

2000. 8 JSAT(株)東証一部上場
2000.10 「(株)スカイパーフェクト・コミュニケーションズ」東証マザーズ上場

- 1996. 7** クローン羊「ドリー」が生まれる
- 1997. 4** 消費税が5%に
- 8** ダイアナ元英皇太子妃、パリで事故死
- 2000. 3** (株)NTTDコム iモード契約数2,000万件

INNOVATION
スカパー！は
進化を
やめない

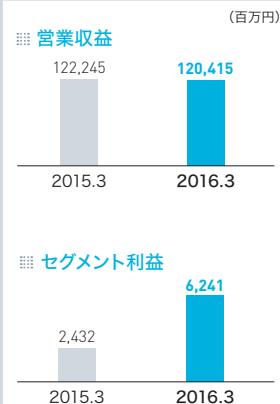


2016年3月期の概況

2016年3月期においては、スカパー！では「加入料0円キャンペーン」や「スカパー！/スカパー！オンデマンドサービス10日間無料放送キャンペーン」等を実施しました。また4K専門の「4K映画」「4K総合」「4K体験」の3チャンネルを視聴いただけるプレミアムサービスでは、同サービスチューナー内蔵4Kテレビの普及に合わせた販売促進を実施しました。

またオリジナル連続ドラマ「アカギ」等の放送、音楽関係ではMr. Childrenの全国ツアーファイナルの完全生中継やポール・マッカートニーの日本武道館公演の独占放送を実施。さらにプロ野球やJリーグのシーズン早期の加入獲得を目的としたオフシーズンからの番組の充実やF1等のスポーツ番組の放送など、コンテンツを軸とした加入者獲得にも取り組みました。

営業収益は累計加入件数の増加による業務手数料収入が増加した一方で、標準画質サービス終了による業務手数料収入等の剥落、ハイビジョンサービス累計加入件数の減少による視聴料収入の減少により1.5%減、セグメント利益はBSスカパー！や4K放送のコンテンツ費用が増加しましたが、番組供給料や広告宣伝費等の減少により156.6%増となりました。

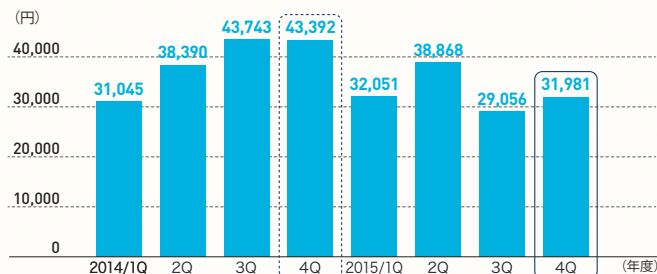


注目 POINT

SAC(新規顧客獲得費用)単価は減少

広告宣伝費の総額を削減した一方で、スポーツシーズン開幕時など新規加入者の多い時期には手厚くするなどコンテンツに合わせた効率的な広告宣伝費の投下により、SAC単価(一件当たりの顧客獲得費用)が低減しました。

SAC単価



加入の状況

	2015年度実績	2016年度目標
新規加入件数		
スカパー！ 合計	44.3万件	43.0万件
スカパー！	38.7万件	37.1万件
スカパー！ プレミアムサービス	4.8万件	4.8万件
スカパー！ プレミアムサービス 光	0.8万件	1.2万件
純増数	2.1万件	2.0万件
累計加入件数	348.2万件	350.2万件
ARPU(¥)	2,191	—
SAC単価(¥)	33,018	—



WHAT'S NEW



新たな取り組み

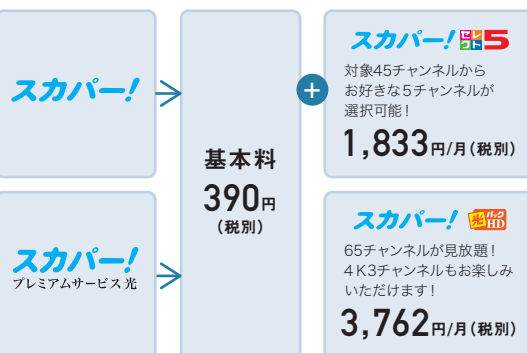
新たな販路で 加入者を獲得

スカパー！、プレミアムサービス光拡大に 向けドコモショップでのお申込受付開始へ

スカパー！ × ドコモ光

スカパーJSATは、新たな加入者獲得に向けて販路を拡大するため、4月20日よりNTTドコモが展開するドコモショップにてスカパー！サービスのお申込受付を開始しました。NTTの光コラボレーション(光コラボ事業者がNTTの光回線サービスと自社サービスを組み合わせ、自社ブランド商品として提供する販売方法)を活用し、NTTドコモの提供する光回線「ドコモ光」とテレビ再送信サービス「ドコモ光テレビオプション」経由でご視聴いただける「スカパー！」と「プレミアムサービス光」を販売するものです。光回線とテレビの相乗効果で、さらなる加入者獲得を目指します。

これにより、スカパー！のテレビ再送信サービスエリア内にあるドコモショップ約1,500店舗で、「スカパー！セレクト5」、「スカパー！光パックHD」をお申込みいただけることになりました。再送信チャンネルの活用と新たな販路でのスカパー！サービスの販売により収益拡大を進めます。



※詳しいご契約条件等につきましては、ホームページにてご確認ください。
<http://promo.skyperfectv.co.jp/hikari/nttdocomo/>

次世代DTH 事業基盤の構築へ

110度CS左旋を利用した4K・HDR放送への取り組み

有料多チャンネル事業では、110度CS左旋による配信システムを利用した次世代DTH(衛星放送)による4K放送や、従来のテレビ放送に比べ、明るさ(輝度)を高めたHDR(High Dynamic Range)の実現を推進します。スカパー！ならではの高画質放送でサービスの差別化を図り、さらなる加入者獲得を目指します。

110度CS左旋に関するスケジュール





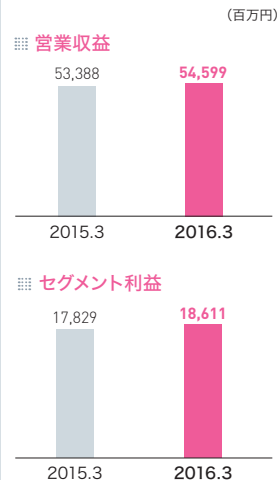
2016年3月期の概況

2016年3月期においては、高まる災害対策やBCP(事業継続計画)対策としての衛星需要に積極的に対応いたしました。2015年5月より高速道路会社3社向けに災害対策として有効な小型地球局による衛星通信サービス「EsBird」を提供開始したほか、同年11月には一般財団法人自治体衛星通信機構向けの災害対策用ネットワーク管制局設備を販売しました。

海外市場においては、成長が期待されるアジア・オセアニア地域の開拓に加え、北米及びロシア地域での営業展開も継続して推進し、2015年11月にはIntelsat社と共同衛星事業を行うことで合意するなど、海外事業の拡大に取り組みました。

さらに船舶向けインターネット接続サービスの利用増加や、全日本空輸(株)の国内線機内インターネット接続サービス、機内での「スカパー！プレミアムサービス」の一部チャンネル同時配信サービスの開始等により移動体通信ビジネスを拡大しました。

営業収益は標準画質サービスにかかる放送トランスポンダ収入が減少する一方で、船舶向けインターネットサービス収入等や前述の災害対策用ネットワーク管制局設備販売等により2.3%増収、セグメント利益は4.4%増益となりました。



注目 POINT

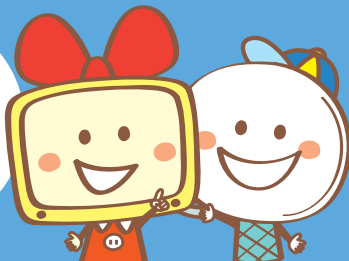
JCSAT-14打ち上げ成功、南太平洋の提供エリアを拡大へ

急速に拡大するグローバル・モバイル需要を取り込むため、2016年5月6日、新たな通信衛星JCSAT-14(東経154度)を打ち上げました。JCSAT-14は、今回初めて利用する打ち上げサービス会社、スペースX社のファルコン9ロケットによって米国ケープ・カナベラル空軍基地から打ち上げられ、無事分離成功しました。今後は、静止軌道上での性能確認試験を経て、運用を開始する予定です。

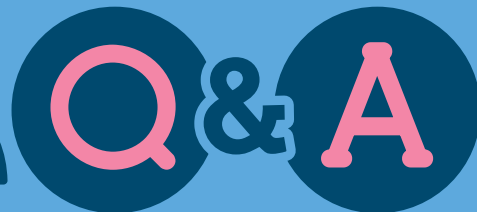
同機はJCSAT-2Aの後継機として打ち上げられましたが、カバレッジ、収容能力ともに拡充しています。Kuバンドについては、日本とアジア、太平洋地域を中心にカバーし、Cバンドは、高出力トランスポンダで海外向け回線の収容能力を大幅に増強しています。運用開始後は、アジア、オセアニアのみならず、ロシアの可視範囲全域および太平洋島しょ国をカバーすることが可能となり、より積極的にグローバル・ビジネスを展開してまいります。



株主の
皆様の疑問に
お答えします！



ここが
知りたい



Q.1

**来期（2017年3月期）は
営業減益となるのはなぜですか？**

A.1

宇宙・衛星事業については、防衛省 PFI 案件による増益はありますが、インドネシア、ロシア等における対ドル現地通貨安の影響で、一定の利用減も予想されます。また、新規に打ち上げる衛星の減価償却費が増加します。

また有料多チャンネル事業については、光回線経由サービスの新たな販路拡大に伴う工事サポート費用や、4K放送の推進、WAKUWAKU JAPAN(株)の積極展開などにより減益を見込みます。

❗ **ここがポイント**

海外ビジネスについては、現地通貨安の影響はありますが、携帯電話の基地局間回線や現地のDTH（衛星放送）での利用など、衛星通信の需要自体は拡大しています。

Q.2

**新中期経営計画の推進において、
事業領域の拡大は
どのように進めるのですか？**

A.2

有料多チャンネル事業では、従来の放送とオンデマンドサービスを融合させ、プラットフォームとしての進化、差別化を図るほか、顧客基盤を利用した付加価値向上を目指します。また、WAKUWAKU JAPAN(株)を中心に海外でのイベント、物販、インバウンド関連ビジネスにも進出します。

宇宙・衛星事業においては、非静止衛星、宇宙空間情報ビジネスへの進出を目指します。また、海外の衛星事業者との共同事業も積極的に模索します。2016年4月に新設した新規事業推進部を中心に、全社を挙げて取り組みます。

❗ **ここがポイント**

両事業とも、事業領域拡大においては、アジアを中心に海外展開を加速し、海外に確固たる足場を築きます。加えて積極的なM&A、事業提携を通じて、新たな競争環境に対応できる成長基盤の構築を目指します。

連結財務情報

▶ 連結財務ハイライト

(単位:百万円)

経営成績(会計年度):	2012/3	2013/3	2014/3		2015/3	2016/3
営業収益	155,242	159,609	171,683	1	163,294	162,905
営業総利益	56,180	53,441	60,430		59,119	61,266
営業利益	17,486	16,153	21,713	2	19,627	24,210
経常利益	16,702	15,698	21,529		19,580	24,012
税金等調整前当期純利益	15,897	15,643	18,543		20,362	24,292
親会社株主に帰属する当期純利益	8,569	9,682	9,659	3	13,515	16,867

営業活動によるキャッシュ・フロー	39,976	38,372	33,345		16,633	24,806
投資活動によるキャッシュ・フロー	1,995	△11,119	△18,969		△34,746	△28,804
フリーキャッシュ・フロー ^(※1)	41,971	27,252	14,375		△18,113	△3,997

財政状態(会計年度末):						
現金及び現金同等物の期末残高	66,404	74,472	63,783		33,963	48,557
総資産	300,133	290,486	287,580		282,516	319,223
有利子負債残高	62,506	49,398	45,994	4	38,366	64,137
純資産	185,052	192,693	184,679		195,640	200,511

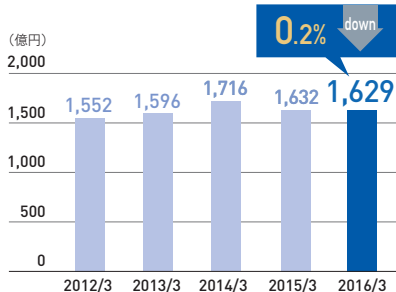
(単位:%)

その他指標:						
営業利益率	11.3	10.1	12.6		12.0	14.9
自己資本比率 ^(※2)	61.6	66.2	64.1		69.2	61.6
ROE(自己資本当期純利益率) ^(※3)	4.7	5.1	5.1	5	7.1	8.6

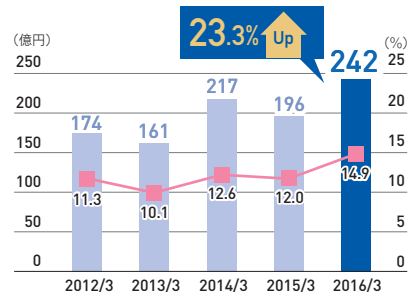
※1 フリーキャッシュ・フロー＝営業活動によるキャッシュ・フロー＋投資活動によるキャッシュ・フロー ※2 総資産に対する自己資本の比率

※3 ROE(自己資本当期純利益率)＝当期純利益／((期首自己資本＋期末自己資本)÷2)

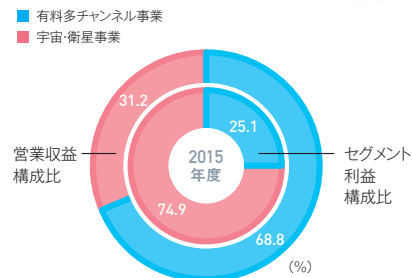
営業収益



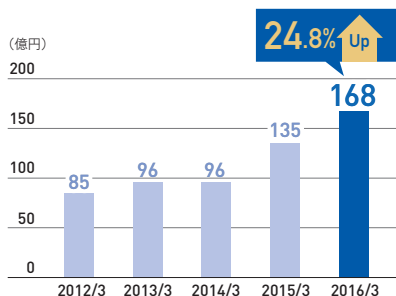
営業利益／営業利益率



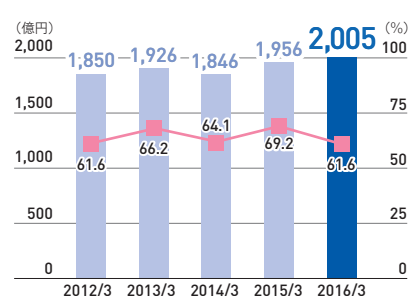
営業収益構成比／利益構成比 (内部取引を含む)



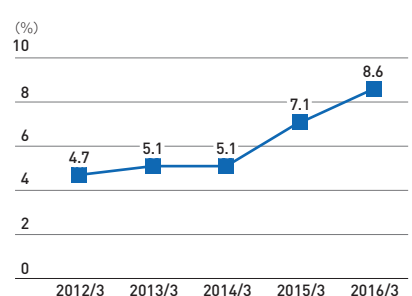
親会社株主に帰属する当期純利益



純資産／自己資本比率



ROE (自己資本当期純利益率) (※3)



損益状況

営業収益①は、「スカパー！」業務手数料収入の増加、災害対策用ネットワーク管制局設備の販売による増加はあったものの、前年度5月に終了した標準画質サービス関連収入の剥落、および累計加入件数減少によるハイビジョンサービス視聴料収入減少等により、前期比0.2%減少いたしました。**営業利益②**は、コンテンツ費用や、衛星事業原価等の増加はあったものの、広告宣伝費、減価償却費等の営業費用が減少したことにより、前期比23.3%増、**親会社株主に帰属する当期純利益③**は前期比24.8%増となりました。

キャッシュ・フロー

営業キャッシュ・フローは、税金等調整前当期純利益や減価償却費に加え、たな卸資産の増加による支出、未払金の減少による支出等により、24,806百万円の収入となりました。投資キャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出等により、28,804百万円の支出となりました。営業キャッシュ・フローと投資キャッシュ・フローの合計であるフリーキャッシュ・フローはマイナスとなりました。

財政状況

総資産は2015年3月末に比べ増加しました。資産の主な増加は、有価証券、仕掛品、負債の主な増加は、未払法人税等、借入金、社債です。なお、増加した主な**有利子負債④**は、設備投資資金の調達を目的として発行した国内無担保社債20,000百万円です。**ROE⑤**は8.6%と前期より1.5ポイント上昇いたしました。

第9回株主様アンケート結果のご報告

このたびは「第9回株主様アンケート」にご協力いただき、誠にありがとうございました。今回のアンケート結果からは、株主通信の内容のうち「宇宙・衛星事業」「株主の皆様へ」「連結財務諸表」に対するご関心の高さが伺われました。引き続き、皆様に有益な情報をお届けできるよう努めます。

また、皆様のご意見・ご要望につきましては、今後のIR活動の改善と充実のための参考とさせていただきます。

第9回株主様アンケート

送付総数	30,130名
回答者数合計	2,516名
〔Web経由 276名 はがき経由 2,240名〕	
回答率	8.4%

グローバルな事業 展開を支える人材

グローバルな事業展開を目指すスカパーJSATでは、
多様な人材が集まり活躍しています。
今回は、本社で働くインドネシア出身の社員をご紹介します。

はじめまして、ドニ ジャヌアルです。スカパーJSATの一員となってから約2年になります。最初にジャカルタ駐在事務所に入り、社内では衛星通信の基礎技術を教わり、またお客様訪問に同行するなどしてお客様のサポートも行えるようになりました。1年前に本社の法人事業部に配属されてからは、インドネシアのお客様だけでなく、衛星通信を利用する多種多様なお客様のことを考える機会も多く、また新たなビジネスプランに触れることもあり、視野が大きく広がりました。多くの人に質問し教わる機会もあり、自分の成長にもつながったと思います。スカパーJSATは新しい技術に積極的に取り組み、わからないことがあれば親切に教えてくれる人が多く、働きやすい職場だと感じています。社内では各種の技術講習会が開かれていて、高度な衛星通信技術について学ぶ機会も充実しています。

将来インドネシアに戻ったら、本社で学んだことを活かしたいと思っています。インドネシアでは、衛星通信は単なるデジタル・ディバイド解消利用が中心です。これからはBCP対策などの高度な衛星通信利用を官公庁・法人のお客様に提案し、また通信事業者とのパートナーシップ・連携ネットワークを強化し、衛星回線の販売体制を強化したいですね。



ドニ ジャヌアル

宇宙・衛星事業部門
宇宙・衛星事業本部 法人事業部

会社情報

■ 会社概要 2016年6月24日現在

会社名	株式会社スカパーJSATホールディングス (SKY Perfect JSAT Holdings Inc.)
設立	2007年4月2日
資本金	100億円
従業員数	815名(連結)2016年3月31日現在
所在地	〒107-0052 東京都港区赤坂一丁目14番14号
電話番号	03-5571-1500(代表)
URL	http://www.skyperfectjsat.co.jp

取締役及び監査役

代表取締役会長	西山 茂樹	取締役(非常勤)	中谷 巖
代表取締役社長	高田 真治	取締役(非常勤)	森 正勝
取締役	仁藤 雅夫	取締役(非常勤)	飯島 一暢
取締役	小森 光修	取締役(非常勤)	小笠原倫明
取締役	小山 公貴	取締役(非常勤)	上坂 清
取締役	横水 伸次	監査役	小川 晃
取締役	小牧 次郎	監査役	坂本 憲昭
		監査役(非常勤)	勝島 敏明
		監査役(非常勤)	藤田 徹也

■ 株式情報 2016年3月31日現在

発行済株式総数 344,603,700株 株主総数 27,741名

大株主

株主名	持株数	持株比率*
伊藤忠・フジ・パートナーズ(株)	76,568,800	25.78%
エヌ・ティ・ティ・コミュニケーションズ(株)	26,057,000	8.77%
日本テレビ放送網(株)	20,891,400	7.03%
(株)東京放送ホールディングス	18,434,000	6.21%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(三井住友信託銀行再信託分・三井物産(株)退職給付信託口)	13,405,200	4.51%
住友商事(株)	11,129,200	3.75%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口)	9,374,300	3.16%
日本マスタートラスト信託銀行(株)(信託口)	8,561,400	2.88%
(株)電通	4,059,400	1.37%
日本トラスティ・サービス信託銀行(株)(信託口9)	4,058,800	1.37%

上記のほか、自己株式が47,595,852株あります。

* 持株比率は、自己株式を除いて計算しております。

免責事項

本株主通信に掲載されている予想、戦略、経営方針、目標等のうち、歴史的事実でないものは、将来の見通しに関する記述であり、これらは、現在入手可能な情報にもとづく経営者の前提、計画、期待、判断などを基礎としています。これらの将来の見通しに関する記述は、様々なリスクや不確定要因の影響を受けるため、現実の結果が想定から著しく異なる可能性があります。

株主メモ

決算期日	毎年3月31日
定時株主総会	毎年6月
上記基準日	毎年3月31日
配当の基準日	期末配当3月31日 中間配当9月30日
取引市場	東京証券取引所 市場第1部
証券コード	9412
株主名簿管理人	みずほ信託銀行株式会社 東京都中央区八重洲一丁目2番1号

お問合せ先

お取扱窓口

証券会社に口座をお持ちの場合、各お取引の証券会社等へお問合せ下さい。
証券会社等に口座をお持ちでない場合(特別口座の場合)、下記「お取扱店」にてお取次いたします。

お問合せ先

〒168-8507 東京都杉並区和泉2-8-4 みずほ信託銀行 証券代行部
フリーダイヤル 0120-288-324(土・日・祝日を除く9:00~17:00)

お取扱店

みずほ証券 本店および全国各支店／プラネットブース(みずほ銀行内の店舗)
みずほ信託銀行 本店および全国各支店

未払配当金のお支払

みずほ信託銀行 本店および全国各支店
みずほ銀行 本店および全国各支店
(みずほ証券では取次ぎのみとなります)

※支払明細の発行については、上記の「お問合せ先」または「お取扱店」をご利用ください。

スカパー!
ご加入者なら
無料で楽しめる

スカパー!の

おまけ

チャンネル、

BSスカパー!

1chでも契約するともちろん付いてくるBSスカパー!のおまけチャンネル、「BSスカパー!」では、音楽、バラエティ、アニメ、スポーツ、ニュースと多彩なジャンルをご用意。広告放送である地上波とは一線を画すスカパー!独自の番組作りを行っています。今回で紹介するのは新感覚のニュース番組「ニュースザップ」です。



BSスカパー!
オリジナル
ニュース番組!

「BBCワールドニュース」「CNN」「日経CNBC」のニュースを解説

「ニュースザップ」は、スカパー!で視聴できる「BBCワールドニュース」「CNN」「日経CNBC」のチャンネルをザッピングして気になるニュースを解説する番組。MCの神田愛花さんとアーサー・ビナードさんら日替わりで登場する「ザッパー」が気になる世界情勢、経済などをいち早く、より詳しくわかりやすく伝えていきます。これまで出演した主なゲストは、小熊英二さん(社会学者)、松尾豊さん(人工知能学者)、柯隆さん(エコノミスト)、澤地久枝さん(作家)、木村草太さん(憲法学者)、徳川家広さん(徳川家第19代宗主)など多彩!どうぞお楽しみください。

BSスカパー!チャンネルをお楽しみいただくには…

- ▶スカパー!をご契約の方は**チャンネル241**、プレミアムサービスをご契約の方は**チャンネル585**に合わせるだけで、**24時間無料**でご覧いただけます。
- ▶スカパー!未加入の方はまずスカパー!にご加入ください。

スカパー!

<http://www.skyperfectv.co.jp/guide/>

プレミアムサービス

<http://www.skyperfectv.co.jp/premium/guide/>

お問い合わせはスカパー!カスタマーセンターへ フリーダイヤル:0120-039-888

※お客様の個人情報に関する取り扱いにつきましては、当社公式サイト上のプライバシーポリシーをご確認いただき、同意の上、お申込みください。

無料放送

月~木曜日 後5:55~8:00

月イチスペシャル 月末金曜日 前11:55~3:00



SKY Perfect JSAT Holdings Inc.

<http://www.skyperfectjsat.co.jp>



この印刷物は、復興支援の一環として、福島県の印刷会社に製造を依頼し発行したものです。

